

「もち美人」の期待生育量一部改定と栄養診断基準

水稻もち品種「もち美人」について、玄米品質が良く、収量 500～580kg/10a を確保するための m^2 当りの粒数は 25,000～30,000 粒、このときの穂数は m^2 当り 350～410 本である。また、 m^2 当り粒数 25,000～30,000 粒を確保するための栄養診断基準値と追肥判定の目安を示した。

1 収量水準を確保するための期待生育量

玄米収量 500～580kg/10a (1.9mm) を安定的に確保するための m^2 当り粒数は 25,000～30,000 粒、 m^2 当り穂数は 350～410 本である(旧指標を一部改定した)。

表1 期待生育量の一部改定

	収量水準 k g/10a	穂数 本/ m^2	一穂粒数 粒	m^2 当り 粒数	玄米千粒重 (1.9mm) g	登熟歩合 %	稈長 cm
新指標	500～580	350～410	67～76	25～30	25	85～90	85以下
旧指標	500～560	320～360	67～76	23～27	25	85～90	85以下

2 m^2 当り粒数 25,000～30,000 粒を確保するための栄養診断基準

表2 栄養診断基準値

項目	診断時期	分けつ期 (6月下旬)	幼穂形成期	減数分裂期
窒素吸収量 (g/ m^2)		2.3～3.9	5.0～8.0	6.5～8.0
地上部乾物重 (g/ m^2)		90～130	300～390	450～620
稲体窒素濃度 (%)		2.6～3.0	1.8～2.2	1.3～1.6

表3 幼穂形成期・減数分裂期における稲体窒素濃度に対応する葉色及び簡易栄養診断値

時期	測定法	葉色対応値 (葉位: n - 2)	簡易栄養診断値 草丈(cm) × 茎数(本/ m^2) × 葉色対応値
幼穂形成期	葉緑素計	41～45	$1.5 \sim 2.3 \times 10^6$
減数分裂期	葉緑素計	39～42	$1.4 \sim 2.4 \times 10^6$

注) 葉緑素計はミノルタ社製 SPAD-502 を使用する。

稲体窒素分析が困難である場合は、葉緑素計による葉色測定を行う。

草丈、茎数をあわせて調査し、簡易栄養診断値をもとめ、栄養診断を実施する。

3 幼穂形成期の栄養診断値(簡易栄養診断値)による追肥判断の目安 (は追肥実施、×は追肥なし)

